

福島県小学校長会会長あいさつ

～ 学校は復興の最大の拠点であり、
シンボルであり、復興の活力源である ～



会長 古関明善

このたび福島県小学校長会会長をおおせつかりました福島市立福島第三小学校の古関明善です。どうぞよろしくお願いいたします。

福島県小学校長会は、大正15年4月の結成以来、本県の小学校教育の充実・発展のために、真摯な研究と実践を重ね、多大な成果を上げてきています。

私は、90年にわたる脈々と受け継がれてきたこの歴史と伝統、そして、先輩方の小学校教育の充実に対する熱い思いを受け継ぎ、本会の会長として全力を尽くす覚悟です。

本校長会は、会員である一人一人の小学校長が、その職責をよりよく果たすことができるようにすることを目的とした組織であります。県内の小学校長が自ら研鑽を積むために集い、互いに切磋琢磨し合い、支援し合い、力を合わせていくことが、それぞれの学校経営の充実と本県小学校教育の振興を促し、ひいては児童一人一人の望ましい成長の実現を果たすことにつながります。それが本校長会の意義であり、役割であると思います。

さて、東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故から丸7年が過ぎました。この間、本県の各小・中学校におきましては、福島県教育委員会及び県内各市町村教育委員会の教育復旧・復興の取組方針のもと、各方面からの多大なご支援もいただきながら、私たちが担うべき役割を再確認し、子どもたちの命を守り、安全・安心を確保するとともに、教育環境や教育機能を回復させるため、会員一人一人が全力で取り組んでまいりました。現在、多くの学校では震災以前の教育活動を取り戻し、子どもたちは元気に学校生活を送ってお

ります。この4月からは、新たに5つの町村において地元での小中学校の再開を果たしました。

しかしながら、未だ多くの子どもたちが避難生活を送っていることや根強い風評や風化の問題、新入生が激減している小中学校など、現状は大変きびしいものがあります。そのほかにも、多忙化の問題や大量退職期における計画的人材育成・教員文化の継承、新学習指導要領への対応など、早急に解決すべき様々な教育課題が山積してきています。このような時だからこそ、校長がリーダーシップを発揮し、教育行政と学校とが一体となって、学校経営を推し進めていくことが肝要であると考えます。全会員が軌を一にして、子どもたちのために頑張っていきたいと思えます。

学校教育の根幹は、言うまでもなく、教育課程の編成・実施であり、授業そのものであります。各小学校では校長がそのリーダーシップを発揮し、地域の特色・特質を生かした創意工夫にあふれたカリキュラム・マネジメントが期待されています。「学校は復興の最大の拠点であり、シンボルであり、復興の活力源」であります。このことを一人一人の小学校長が、さらには教職員が、認識を新たにすることで、校長自らの責任に基づく、教育理念の具現化を図り、活気に満ちた学校経営ができるよう、本校長会の組織的な取組を重視し、本県小学校教育の充実と発展に努めてまいる所存でありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。